



「奥武蔵駅伝競走大会の記念品」

飯能市立博物館 学芸職員 村上 達哉

「奥武蔵駅伝競走大会」(以下「奥武蔵駅伝」)は、奥むさし駅伝競走大会の前身です。奥武蔵駅伝は、平成11(1999)年の第48回大会の後3年間中断します。平成15年に再開した際、大会名称のうち「武蔵」が「むさし」に変わり、距離も変更されました。通算71回の開催、70年以上の歴史を誇る伝統ある駅伝大会です。

『奥武蔵駅伝競走大会40年のあゆみ』(以下『あゆみ』)をみると、奥武蔵駅伝構想の背景には、戦後復興期における国民生活向上の兆し、連合国最高司令官総司令部(GHQ)による、スポーツ・レクリエーション活動の推奨、サンフランシスコ平和条約の締結や、国際オリンピック委員会への復帰などがあったようです。その一方で、当時、飯能町民の心の内に暗く影を落としていたのが、元加治村分村問題に端を発した「飯能事件」(註1)でした。

『あゆみ』は「こうした地域の社会情勢の中にあって、心ある人達の折にふれての会話の中から、ひとつの対策として浮かび上がって来たのが、スポーツを通しての明るい活力に満ちた町づくりであったようである。～(中略)～青少年の体力づくり、活力、精神力の向上にとって欠かせない～(中略)～同時に多くの人々に恵まれた奥武蔵の自然の美しさを知ってもらう事により、明るい観光飯能もイメージアップにもつなげたいと言う構想も含まれていた様である」と記しています。このように、奥武蔵駅伝開催に至る裏側には、当時の飯能町民の切実な思いがありました。

奥武蔵駅伝の記念品には、バッジとバックルがあります。記念バッジは、第1回大会開催以降、第5回大会(この時は記念大会としてタオルが配られた)を除き、毎回配布されました。記念バックルは、第2回から第15回までの入賞者に授与されたとのことです。

当館では今年1月に市民の方から、第1～4、7～9回大会のバッジと、第4回大会のバックルをご寄贈いただきました。奥武蔵(むさし)駅伝の長い歴史の黎明期を物語る、貴重な資料です。

註1 昭和26(1951)年9月24日夜、元加治村分村問題に係る区民集会が元加治小学校で開催された後、分村賛成派の約600名が、分村反対派の6軒の家屋を襲撃、屋内に乱入、破壊行為に及び数名の負傷者をだした騒擾事件。

【引用・参考文献】

奥武蔵駅伝競走大会40年のあゆみ編集委員会編 1991『奥武蔵駅伝競走大会40年のあゆみ』
(飯能市体育協会・飯能陸上競技協会 16ページ)



図1 記念バッジ・バックル